

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3650180023		
法人名	医療法人鈴木会		
事業所名	グループホーム蜂須賀荘		
所在地	徳島県徳島市応神町古川字日ノ上32-1		
自己評価作成日	平成21年8月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip_infomationPublic.do?JCD=3650180023&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成21年9月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づいて入居者一人ひとりがその人らしく生き生きとした暮らし方ができるよう地域の人たちとの交流として町内行事への参加等の外出を頻繁にし、入居者とその家族、職員が家族として助け合い、支え合って安心できる環境をつくるよう努力している。またレクリエーションや壁面装飾などに入居者が積極的に参加し、写真を掲示したり、出来上がった作品を飾る事で入居者が自信と充実感が味わえるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設事業所や施設と行事を共に実施したり、リハビリ器具や送迎車などグループホームだけでは整えにくい設備や備品の共有体制があり、利用者の豊かな暮らしに繋がっている。運営推進会議は年間計画を立て、2か月ごとに開催している。資料や内容は充実し、会議をととして地域住民との関わりの広がりができてきており、利用者の生活内容の向上に繋がっている。毎日の申し送り時に理念の唱和を行い、介護方針の共有を徹底している。管理者は職員との話し合いを日常的に行い、また役割分担がきちんとできており、一人ひとりの職員が生き生きと働いている。職員は日々、心のもったケアを行い、利用者の穏やかな表情が安心した生活を物語っている。職員のレベルアップを目指した職員研修や資格取得などにも力を入れて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			GH1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が住み慣れた地域でその人らしく、安心して暮らしが継続できるように全職員で考え、話し合い、事業所と地域の関係性を重視した独自の理念をつくっている。	職員は毎日の申し送り時に理念を唱和して意識づけに努め、日々の実践に結びつけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	広報「蜂須賀荘だより」を応神コミュニティセンター、民生委員に配布している。散髪、買い物なども日常的に行っている。また、地域交流係をつくり、地域交流を図っている。	近隣に住んでいる方々に案内して納涼祭などの行事に参加してもらったり、事業所からコミュニティセンターの行事に参加したりして地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の大学の教育実習や中学生の体験学習の受け入れ、ヘルパー2級取得の実習、大学生による音楽療法、ボランティア等を受け入れ認知症を持つ方への理解、支援の方法を伝達している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内容は事業所の取り組み状況や課題等で参加メンバーから有益な意見が出され対応の改善が図られている。	年間の実施計画を立て、内容や資料の準備などはユニットごとに担当を交代して取り組んでいる。会議で出された意見は記録に残し、課題の改善策を検討してサービスの質の向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者は市の担当者も日常的に交流し、事業所の思いや実状等を気軽に話し合い、担当者から情報や助言を得るなど市町村と共に質の向上に取り組んでいる。	他の制度を利用している方の入退居時における相談を行い、助言を得たり解決方法を話し合ったりしている。また生活面の実情を伝え、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の身体拘束については管理者及び全ての職員が理解しており、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	日頃から身体拘束をしないケアについて話し合い、勉強会ではビデオを活用して全職員に徹底を図っている。また日中は、玄関の鍵はかけていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び職員は福祉についての研修や勉強会から学び、常日頃から虐待とはどういうことかまた、虐待が行われていないかどうかなどについて話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			GH1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に積極的に参加し、また広報等の資料を得て、個々の必要性について関係者と話し合い、支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には文書及び話し合いにより、十分な理解と納得をしていただいて契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には運営推進会議に出席していただいたり、意見箱の活用、また面会時に職員と話し合っていたりなど意見、不満、苦情をお聞きし運営に反映させている。	玄関に意見箱を置き、意見や要望が把握できるようにしている。また運営推進会議で意見を出してもらったり、来訪時に職員から話しかけたりしている。苦情に対しては、改善策を検討し運営の改善に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日行われている申し送りや、毎月行われている職員会議において、お聞きした意見や不満、苦情について話し合い運営に反映させている。	管理者は常に職員の意見を聞く姿勢を持っており、日々実践している。また月1回のミーティング時には無記名で意見を出してもらい、サービスに反映できるようにしている。これにより職員は意欲的に仕事に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の目標を把握し、達成に向けての支援やアドバイスを行い、評価している。そのため、各自が向上心を持って取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は責任の向上に熱意をもたれている。法人内では各部署の代表による会議が定期的に行われ、年間の研修計画を立てるなど職員個々に応じた段階的な研修の機会を確保している。また研修内容の共有も図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他法人の同業者と互いの運営推進会議や行事に出席したり、相互評価を行うなど積極的な交流が図られサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			GH1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人または家族などから不安、希望、生活歴などを十分にお聴きし、要望を満たせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族や本人と担当者が十分な話し合いを行い、不安を取り除き希望などをお聴きし、それを受け止め努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人ひとりの個性を活かし、身体能力だけでなく何を必要としているのかを見極め、支援をさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者を共に暮らす家族として、また先輩として敬い、一人ひとりの力量に応じた役割を担っていただく中で喜怒哀楽を共感し、喜び、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	食事作りやレクリエーションを職員が一緒に行い、教えたり教えられたりお互いに支え合いながら過ごしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力や情報を得て関係が途切れないよう取り組んでいる。また、墓参りなどにも出かけている。	利用者一人ひとりが大切にしてきた関係が途切れないように、家族の理解・協力を得て墓参りや海を見に行くなど日程調整しながら個別の支援を実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ趣味や興味を持つ入居者が共に楽しめるように支援を行ったり、一緒に参加できるようなレクリエーションを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			GH1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移った方の来訪や、入居者が訪問するなどして、関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりの中で、声掛けや対応時のちょっとした表情の変化や反応から利用者の希望、意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な方には家族、関係者から情報を得ている。	センター方式を取り入れ、利用者一人ひとりの思いを知るようにしている。また日々の生活場面の中で把握したり、家族から聞かせてもらったりして、思いや意向を知る努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりに担当の職員を決め、生活歴や馴染みの暮らし方などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしぶりを介護日記に記し、また変化があれば申し送り時に取り上げ対処している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から出された要望や望む暮らしを踏まえた上で、日々のミーティングやカンファレンス等で全職員による話し合いが行われ、利用者の豊かな生活を重視した介護計画とモニタリングが行われている。	担当制をとっており、月1回のミーティングやカンファレンスにおいて職員間で話し合い、介護計画を作成している。家族の希望は来訪時等に聞き、計画に反映させている。またモニタリングを行い、現状に即した介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は毎日、入居者一人ひとりの介護記録を書き、変化や異常時には業務日誌によって全員が把握し、介護計画の変更などを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者個々のニーズに対応して、事業所外でのリハビリが出来るよう支援するなど柔軟な支援ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			GH1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の大学の協力により音楽療法を定期的実施したり、ボランティア・警察・消防などの協力を得て支援の向上を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医による医療が受けられるよう支援し、本人、家族と話し合い希望に応じて受診などの対応も柔軟に行っている。	かかりつけ医との関係が継続できるように、本人や家族の希望を聞いて受診の支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所では職員に看護師がおり、また訪問看護事業所も併設している。また入居者のかかりつけ病院、医院から病状の把握などに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時には、医療機関と連絡を密にとり情報交換している。また面会による情報収集を行い、退院後の生活がスムーズにいくよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応指針について話し合いが行われ、利用者、家族、かかりつけ医、職員など関係者全員で方針を共有し、家族の同意書(記名、捺印)も得られている。	重度化した場合や終末期に向けての支援については、話し合いや文書で確認をして事業所の指針に同意を得ている。家族と共に納得のいく最後を迎えられるように医療関係者などと連携を図りながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	勉強会で救急法やAED、避難訓練などを学び、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年4回開催され、警察署、消防署、職員が協働して取り組み、連絡網も整備されている。また熱心に取り組む訓練現場の写真とともに記録も残されている。	防災訓練を年4回実施し、自主防災への取り組みや連絡網の整備は行われている。しかし、地域との協力体制作りへの取り組みは十分ではない。	今後、地域の方々の協力体制が得られるように運営推進会議などで検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			GH1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりのプライバシーを大切に、職員は毎日行われている申し送りで個人情報損なわれないよう話し合いをしている。	職員は利用者に対して年長者への敬意の気持ちをもって接している。プライバシーを尊重し、個人情報が漏れないよう申し送りや勉強会等で確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりが楽しく暮らせるよう話し合い、個人的に外出することなどの希望を実現できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	担当職員が入居者一人ひとりの希望などをお聞きして、不満を持たれないよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者一人ひとりの身だしなみやおしゃれについて、職員及びご家族などの協力を得ながら支援し、行きつけの美容院や理髪店に行けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛りつけや片付けなどを一緒に行い、入居者と職員は同じテーブルを囲み和やかな食事時間を共有している。	利用者から献立に対する希望を聞いたり、調理の手伝いなどもできることはしてもらったりしながら食事を楽しんでいる。職員も一緒に食べ、和やかな雰囲気をつくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの一日の食事、水分摂取量を記録し全職員が共有している。また、個々の咀嚼機能に応じて形態にも配慮している。栄養バランスは母体法人の管理栄養士がチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔清潔が自分できない入居者には、声かけやケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			GH1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄チェックを行い、ケアプランの見直しや職員間の申し送りによって失禁をできるだけ減らすように支援している。	排泄チェック表を活用し、失禁回数を減らしたり、オムツの使用をなくすように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の重大さを理解し、入居者一人ひとりのチェックを行い、予防と対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望を聞き、希望にそった曜日や浴室での入浴ができるよう努めている。	本人の希望により、家庭風呂、併設事業所の大浴場や機械浴などを選んでもらっている。嫌がる人にも言葉かけや誘導方法を工夫し、少なくとも週2回は入浴していただくよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や状態を把握し、お話を伺ったりお茶をお出ししたりするなど安心出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬には十分注意を払い、変化や異常の発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの幅を出るだけ広げたり、生活をするための役割を持っていただくなど喜びや楽しみが持てるよう支援している。菜園で花や野菜を育てたり事業所内の掃除などの役割を担っていただくなどして生きがいを持って生活している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	菜園や畑はもとより、季節に応じた場所や個人が希望するところへドライブに行くなどの支援をしている。	月間計画により、季節を感じられる場所や買い物、ドライブ、外食などに出かけている。外出時の利用者の様子を写真に撮り、ホーム便りに掲載したり、家族にも送るなどして喜ばれている。	今後さらなるサービスの質の向上に向けて、ホーム周辺の庭を活用し、外気浴散歩など五感を刺激できるような日々の支援を検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			GH1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけた際に値段などを相談しながら、お金を持つことの大切さを理解した使い方をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望すればいつでも電話をかけ話ができるよう自由に使用している。また、手紙のやりとりも行われている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間等は常に清潔に保ち、菜園で採れた季節の花を飾るなどして居心地よく過せるよう工夫している。	利用者の作品を廊下やホールの壁面など随所に展示して、手作りの温かさをかもし出している。また食堂のテーブルや洗面所などに黄花コスモスなど季節の花を飾り温かい雰囲気をつくり出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間にはテーブルや長いすを複数置き、くつろげるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や装飾品を持ち込んだり、写真を飾るなど快適に過せるよう努めている。	自宅で使っていた馴染みの家具を持ち込んでもらっている。また家族や自分の写真を飾ったり、習字を掲示するなど居心地よい居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの持っている力を活かし、調理の手伝いやレクリエーション等を通して個々の対応を行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			GH2 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、グループホーム独自のものを職員から募って作成し、毎日の申し送りの時に唱和し確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の文化祭や、講演会などに参加している。また近くの幼稚園児や大学生との交流もあり、地域の一員として交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成への貢献として、実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価結果を運営推進会議で報告し、話し合いサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者から情報を得て研修会へ参加したり、各種情報をいただいたりして事業所のサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会(ビデオ等活用)を通じて全職員に周知徹底して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中(9:30~17:30)は、玄関の鍵を開けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い虐待の無い事業所づくりに励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			GH2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターが行う利用者の権利擁護の研修会に参加し、必要な入居者には活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や介護保険改定等の際には、必ず事前に文章で連絡し、十分な説明を行い、ご理解・納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の玄関に意見箱を設置したり、運営推進会議において入居者の家族が意見を述べる場を設けたりしている。それらを事業所運営に活かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、夜勤者以外の全員が参加するミーティングを行い、事前に無記名で意見を出してもらうなど提案の場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得にむけた支援を行っている。◆取得後は、本人の意向を重視しながら適材適所への職員配置を考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事務所外で行われる研修に多くの職員が参加し、内容を報告書としてまとめ、提出している。また、事業所内の勉強会で報告し、他の職員に発表する事で能力向上につながっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の同業者と相互に運営推進会議に参加し、良い点を学び取り入れて、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			GH2 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後すぐの間は慣れない生活で不安も多いため、職員が本人の苦痛にならないように接している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族と話し合う機会を重ね、入居後も不安な事は何でも言っていただけるように門戸を広げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に入居前の状態をお聴きし、主治医とも相談しながら事業所での支援内容を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般の中で利用者のできる事やできない事、好き嫌いなどの把握に努め、本人の考えている事やしたい事を行っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の事業所での日頃の状態を報告・相談すると共に、蜂須賀荘だよりを2か月に1回送り、常に関係を維持している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から慣れ親しんだ事がそのまま維持できるように、事前に日程などを調整しながら、お墓参りや昔よく行った場所へのドライブなどを行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日新聞を回し読みしたり、入居者同士で将棋を行ったりしている。また、トイレの場所が分からない方を他の入居者が案内してくれるなど、お互いに支え合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			GH2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や他の施設に移られた方とも連絡を密にし、本人・家族にとって一番よいと思われる事を話し合い支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話や日常生活での表情、昔の事を知る家族の話などから、本人が望む事を行ってみている。少しでも本人が希望する事を見つけられるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴を家族の方から聞き、また毎日の生活を通じて思いや意向の確認に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々入居者と接する中で、バイタル測定、表情や入浴時の全身観察など、また何気ない会話から現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1度、モニタリングを行ってケアプランを作成し、また本人の状態が変わった時などは必要に応じて作り直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	午前・午後・夜間と、職員が個々の入居者を見て気づいたことを介護記録として記載し、職員全員が読んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院でのリハビリだけでは物足りない方には、デイケアでリハビリを行っていない時に運動を行っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			GH2		実践状況
			実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に参加する地域包括支援センター職員や民生委員の方と、地域の情報や支援に関する情報、意見などを交換し、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人と相談しながら医療機関を選択している。受診や通院は本人や家族の希望に応じて支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の入居者の健康管理や医療面での相談・助言を行っていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリーを作成して医療機関に提供し、その後も回復状況などの情報を交換しながら、速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の指針を説明し、家族と共に十分納得できる終末期が迎えられよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間で応急手当の勉強会を行い、入居者の急変時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回避難訓練を行い、入居者・職員共に火災・地震等安全対策を行い、いざと言うときに備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			GH2	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを一番に考え、年長者に対しての尊敬の念を忘れずに話しかけ等を行い、接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりのペースにそった支援を行い、職員の意見を押し付けないように気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースにそった支援ができるように、本人と相談しながら一緒に寄り添って過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝は必ずパジャマから普段着への着替えを支援している。本人に希望する洋服を選んでいただき、こまめに洗濯も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付けや準備など、それぞれの好きな事や出来ることを行ってもらっている。食材によっては好き嫌いがあるため、個々に他の食材に代えたりして対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態も一人ひとりに合わせて変えている。摂取量の少ない方には、メイバランス等の総合栄養補助食品を食べていただいたり、梅干し・きな粉を添えるなど、利用者個々の好みを考慮しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしていただき、また自分で出来ない方には職員が介助し、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			GH2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握している。尿意の無い方には排泄チェック表を活用し、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、水分補給や食物繊維の多い食材を食べていただいたり、医療機関から処方されている薬を服用してもらったりし、便秘対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の状態に合わせて家庭風呂・大浴場・機械浴等を使い分けている。入浴のタイミングは本人に決めていただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中に活動的に過ごしていただき、生活リズムを整えるように支援している。夜間は洗濯を行わず、静かな環境づくりを心がけている。照明も個々の好みに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	人によっては、服薬時に本人が飲みやすいようにトロミをつけている。必ず本人に渡してきちんと服薬できているかを確認している。また、服薬ファイルを作り、何の薬が分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割を利用者自身に決めて担ってもらい、それを毎日の日課として支援している。達成できた日には、カレンダーにシールを貼っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に応じた買い物や外出を支援している。近所への散歩にも行かされている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			GH2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所に移動販売のパン屋さんが週に1度来るため、お金を持って本人の好きなパンを買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話かけたり、取り次ぐことができるようにしている。他の入居者に気兼ねしなくてもよいように詰所内で電話していただいている。また、手紙を書きたい方には、葉書や便箋を渡して、いつでも出せるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が移動しやすいように床の段差をなくし、部屋全体を落ち着いた雰囲気のカリーム色にしてている。トイレの清掃は、1日2回行なっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・ホールには入居者の席以外にもソファも置いて、入居者同士がくつろげる場所をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使い慣れている家具を持って来ていただいたり、家族の写真を並べたりして、できるだけ入所前に近い雰囲気づくりを心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室が分かり難い方に、本人の名前を大きく書いて入り口に貼り、居室を間違えないようにしている。		